「慶應義塾の開校記念日」

吉崎 達二 S44 エ

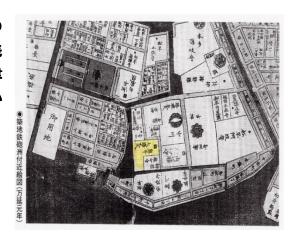
4月23日は慶應義塾の開校記念日である。開校記念日は慶應義塾にとって大切な日とされ、孫が通う初等部はお休みで、お祝いのお菓子を配られる。正直なところ、私は10年間慶應義塾にお世話になった者であるが、学生時代に開校記念日を祝ったという記憶がなく、4月23日が開校記念日であるということも知らなかった。不徳の致すところである。そこで改めて調べて見た。その結果、諭吉先生が数えの25歳の時の安政5年(1858年)に藩命により、江戸築地鉄砲洲の中津藩中屋敷内に蘭学塾を開塾され、今年が、163年目であることが判った。

築地鉄砲洲の中津藩中屋敷は、現在の築地明石町の 聖路加国際病院敷地当りである。忠臣蔵事件前には浅 野内匠頭の 9000 坪に及ぶ屋敷があり、隣接して中津 藩奥平家の屋敷があった。現在は浅野内匠頭邸跡とい う石碑が建っている。



1862年(文久2年)江戸築地鉄砲洲中津藩中屋敷内の蘭学塾。画面中央左側築山下の平地





黄色のマーク部分が築地鉄砲洲中津藩中 屋敷。蘭学塾は1階に6畳、2階に15畳 の部屋というものであった。



應義塾発祥の地記念碑は、聖路加通りと居留地中央通りの交差点のロータリーにある。 そこには、「日本近代文化事始の地」という説明板があって、隣接して『慶応義塾発祥の地』 『蘭学の泉はここに』という石碑が建っている。

石碑には「安政五年 福沢諭吉 この地に学塾を開く。創立百年を記念して昭和三十三年 慶応義塾 これを建つ。」と刻まれている。







「天は人の上に人を作らず」との学問のすゝめの一文が刻まれている。

碑文には「慶應義塾の起源は 1858 年福沢諭吉が中津藩奥平家の中屋敷に開いた蘭学の家塾に由来する。その場所はこれより北東聖路加国際病院の構内に当る。この地はまた 1771 年中津藩の医師前野良沢などがオランダ解剖書を初めて読んだ由緒あるところで、日本近代文化発祥の地として記念すべき場所である。 1957 年 4 月 23 日除幕」と刻まれている。





慶応の碑文のそばには解体新書の 石碑が建てられている。

碑文にあるように、中津藩屋敷は実際には、聖路加国際病院の構内にあった。本来ならば、聖路加国際病院の敷地内に慶應義塾発祥の石碑があってしかるべきではないかと思うのだが、どうしてロータリー内に設置されたのかその経緯は分からない。築地明石町近辺は、慶應義塾開塾の碑、蘭学事始めの碑、軍艦操練所跡、専修大学発祥の地、工学院大学発祥の地、明治学院発祥の碑、芥川龍之介生誕の地、アメリカ公使館跡、立教及び女子学院発祥の地などなどがあり、近代歴史の史跡の宝庫である。

ところで 4 月 23 日という日は何処からきたのであろうか?鉄砲洲の中津藩中屋敷に蘭学塾が開塾されたのが 1858 年の 4 月 23 日かと思っていたが、違うらしい。何故ならば、福翁自伝などの記述から諭吉先生は 1858 年 10 月に着任されているからである。4 月 23 日を義塾の開校記念日と定めたのは、明治 42 年のことである。制定の経緯について、同年 5 月に発行された『慶應義塾學報』に次のように記されている。

慶應義塾が芝新銭座より現今の三田2丁目に移転したるは、去る明治4年4月23日(旧暦にて3月23日)なれば、義塾にては本年より毎年此日を開校記念日として、休校の上、様々有益なる催しをなす事とし、同時に従来毎年9月に行ひし寄宿舎記念祭をも同日に行ふ事となせり。

『慶應義塾學報』(明治 42 年)

上記学報に、4月23日という日の設定に当たって、旧暦を新暦に換算とある。旧暦・新暦変換ツールで旧暦の明治4年の3月23日をインプットしてみた。その結果、新暦では

明治4年5月12日(金曜)となる。開校記念日を定めた明治42年に旧暦と新暦は1か月の差であるとの理解で、単純に1か月をプラスしてしまったのではないだろうか。従って、本来ならば、開校記念日は5月12日ということになる。いやいや、本来ならば諭吉先生が鉄砲洲の中津藩下屋敷で蘭学塾を開かれた日であるべきであろう。開塾年は1858年、開校日は4月23日、しかも4月23日の根拠が乏しいというのが開校記念日に関する事実である。